

ナースをはぐくむクリニック 星川小児クリニック 看護師 川本加奈 医師（院長） 山本 淳

ビデオ：看護師 福家順子・関本千代子

きょうのおはなしの内容



星川小児クリニックでのナースの役割は多岐

星川小児クリニックのナースは、診療介助だけでなく、予診 診察室と一緒に診察 その後のフォロー という流れがあります。また、病児保育室も併設していて、ナースもかかわっています。だから、小さなクリニックなのですが、1名の診察医に対して、ナースが3～4名という比較的多くのナースがいつも協力して仕事をしているのが特徴です。実際にどんなふうになっているのか、どうやって紹介しようか考えたんですが、「だったらビデオが一番いいよ」と、思いつき、患者さんの協力を得てすぐにビデオ撮影に入りました。と、いうことで、まずはクリニックの様子をごらんください。



ナースも一緒に聴診したり、喉もみたりしてね。



看護マニュアルはないけれど

新しいナースをどうはぐくんでいくか・・・が、今回のメインテーマなのですが、実は・・・星川小児クリニックには「看護マニュアル」みたいなものが無いんです。ナースは予診、診療介助、簡単な検査のほか、患者さんにホームケアの話や薬の説明をしたり、治療方針の再確認、ときには患者さんからの相談を受けたり・・・さまざまな場面でケースバイケースの対応を求められますが、はじめてのときは必ず先輩がフォロー。また、何度でも同じことを先輩に聞いても大丈夫という雰囲気があります。先輩も説明しながら、自分でも知識を再確認。そしていつしか後輩たちも、クリニック全体を気遣える存在になっていく・・・そんな好循環があります。そんなおはなしをしたいと思います。



あなたかくはぐくまれた2年間

星川小児クリニックは、ナースが多いので、精神的にも時間的にも余裕がもてます。そして、先輩たちは、「教える」というよりも、「はぐくむ」という感じで新しいスタッフに接してくれます。ちょうど親がこどもの成長を待ちながら、見守っていく、そんなイメージです。だから今回のおはなしのタイトルにも「はぐくむ」とう4文字を入れてもらいました。

クリニックでは、ナースが担当する仕事の種類はかなり多いのですが、慣れてくるとそれらが自然につながって、例えば患者さんとお話しをするだけで、その子に起こっていることや、どうかかわっていったらいいのかが、自然にわかるようになってくるんです。患者さんには自分の言葉で患者さんに話し、かわりながら、仕事を覚えていくことができとても楽しく仕事ができます。クリニックに来てからの2年間を振り返ってお話しをしてみたいと思います。



病児保育室は保育士と連携しながらの仕事。ナースは医療的なアドバイスをします。



きょうもチームワークでがんばってくださいね。（朝礼）



ナースが優秀だというわけじゃないんです

星川小児クリニックのナースは優秀だからできるんだよなんて言われてしまうんだけど・・・どう？ そんなことないですよ（笑）。ナースを活用していただけるかどうかはクリニックの、とくに院長先生の気持ち次第ですよ。先生が明確に方針を示してくだされば私たちも応えることができます。ただ、あわてず、ゆっくり少しずつ。先生たちも、ナースの話聞いてくださる機会を上手に作っていただけるといいですね・・・看護師のリーダーの立場から、クリニックを、ナースをはぐくむポイントを、お話ししてみます。
(そうは言っても、みんな優秀だとは思っていますm(_ _)m / 院長)



患者さんの「ありがとう」がナースにむかうように

医師（院長）が、ナースのみなさんに、クリニックで気持ちよく成長してもらえるように気を配っていることのひとつが、診察後の、患者さんの「ありがとう」のひとつが、診察室ではナースにむかうように心がけていることです。それから仕事が終わったときには、スタッフと必ず顔を合わせ、スタッフへの感謝の気持ちで、僕からも「ありがとう」。「ありがとう」は、不思議な力を持っている言葉ですよ。おそらく人を「はぐくむ」もとになる言葉かもしれない。そのほかにも、きょうのお話しのまとめも含めて、いくつか自分なりの気配りのポイントを紹介しようと思います。